

目次	頁
序	
凡例	
時代の概観	1
第一章 廃藩置県と地域の変化	11
第一節 愛知県の成立	12
廃藩置県／額田県の設置／額田県の大区小区制／名古屋県から愛知県へ／額田県の廃止／ 愛知県の行政機構／県の財源	
第二節 徴兵制と戸籍制度	28
名古屋鎮台の設置と練兵場／徴兵制の施行とその問題点／西南戦争と鎮台兵／第六連隊諸隊の戦闘／ 戦死者の顕彰と慰霊／戸籍制度／司法の創始／警察の創始	
第三節 旧大名・士族と地域社会	50
諸藩における禄制改革／秩禄処分／復禄・復籍請願運動／身分的な都市支配の解体／武家地の処分／ 寺社地の処分／大名華族と地域社会／三河における士族団体／士族授産の展開／ 城郭の存廃と旧城郭地／大名華族の旧領移住／コラム 尾張紡績と電灯計画	
第二章 県政の展開と産業の近代化	81
第一節 明治前期の県政	82
井関権令から鷲尾県令へ／安場県政／郡区役所と郡区長／地方税の成立／愛知県会の始まり／ 戸長役場と町村会／名古屋区行政の確立と吉田禄在／都市インフラの整備と開発構想／ 教員給与の統合と家屋税の導入	
第二節 地租改正の実施	102
壬申地券の発行／地租改正事業への着手／三河・尾張における改正事業／改租事業の結果／ 春日井郡の地価改定運動／地租軽減・地価修正の運動	
第三節 明治前期の経済と殖産・勸業政策	118
封建的規制の廃止と初期の経済／松方財政期の県経済／名古屋通商会社と刈谷商社／ 用水開発の始まり／安場県政の勸業政策／地租改正への不満と殖産勸業／ 明治用水工事費と「開墾資金」／国貞・勝間田県政の勸業政策／ コラム 愛知県における「老農時代」と近藤林	
第四節 明治前期の流通と金融	142
明治前期の流通／物流の変化と運送会社の成立／県為替方と三井組・小野組／ 小野組の破綻と伊藤家／国立銀行の設立／国立銀行の初期の経営／私立銀行の設立／ 銀行類似会社の勃興／名古屋株式取引所の創業と解散／郵便事業の開始／電信事業の開始／ 道路制度の改変／熱田港とその改修	
第五節 自由民権運動	172
民権結社の設立／私擬憲法の策定／政談演説会の開催と知立事件／自由党地方部設置と三陽自由党／ 板垣退助遭難事件と愛知県／立憲改進黨系の動向／共同会と愛国交親社の動向／ 内藤魯一の動向と加波山事件／名古屋事件と飯田事件／三大事件建白運動の展開	
第三章 文明開化の社会	193
第一節 文明開化への道	194
旧慣の排除と文明の導入／文明と民衆のせめぎ合い／社会秩序と違式?違条例／都市の文明開化／ 市街地と風俗の文明化／神武創業と天長節／一八七八年の巡幸	
第二節 学制と近代学校	212
廃藩置県と教育／学制と「被仰出書」／義校と小学校／教員の養成と教員／中等・専門の教育／ コラム 子守学校	
第三節 学校制度の模索・成立	230
教育令の制定・改正／教員の雇用と教育会／中等・専門の学校／諸学校令の制定	
第四節 文明開化期の村社会	246
維新期の村／維新期の村絵図・地引絵図／村絵図・地引絵図の中の近代／村の文明開化／ 残る旧来の生活／商品経済と生活の変化／松方財政下の農村／東三河の報徳社	
第四章 立憲体制下の愛知県	263
第一節 明治地方自治制の成立	264

近代的地方自治制度の導入／府県制の公布と実施延期論／名古屋市と郡部の対立／県庁機構の整備／郡制の実施と郡の統廃合論／市制・町村制の実施／強制された町村合併／行政町村と旧村の二重構造／町村制の担い手の不足／名誉職自治制度の空洞化／合併反対運動／地域の対立と行政争訟／地方制度の整備と地方財政	
第二節 三河分県運動の展開	294
三河分県運動の端緒／三河分県運動の本格化／三河の衰退と復権という言説／三河分県論への批判／元老院への建白と政府の対応／衆議院での審議と運動の終息	
第三節 政党勢力の勃興	306
県内の政治動向／第一回衆議院議員選挙と諸政党／自由党の党勢拡大と地域振興／立憲改進黨の党勢拡張／第三回・第四回衆議院議員選挙／隈板内閣の崩壊と地租増徴問題／立憲政友会の結成と愛知県支部／大選挙区制下の衆議院議員選挙／憲政本党の消長	
第四節 近代都市の形成	326
名古屋における都市構造の変容／名古屋市制施行と市長・市会／市域の設定と都市構想の展開／名古屋市の税制と財源／行政拠点の配置と都市人口／郡役所所在地と小都市／産業化と新たな都市の発展／鉄道駅の立地と市街地形成／芸娼妓の増加と都市の遊興空間／都市問題の萌芽／上下水道整備以前の水利用／コラム 明治期の大須観音と境内露店	
第五節 総合的学校体系の確立	348
初等教育の整備・義務教育／御真影・教育勅語と学校教育／師範学校の拡充／中学校・高等女学校の拡充／実業教育の多様化	
第五章 資本主義社会の形成	367
第一節 企業勃興	368
企業勃興の概観／明治期の主要工産物／企業勃興の推移／市部と郡部の企業勃興の違い／名古屋市部の企業家グループ／尾張地域郡部の企業家グループ／三河地域の企業家グループ／県の企業勃興の意義と限界	
第二節 衣料品生産の進展	390
工場制工業の定着／機械制綿紡績業の登場／名古屋市域の綿紡績会社／尾張地域の綿紡績会社／ガラ紡の普及／尾西・尾北織物業の展開／知多織物業の展開／三河木綿の転換／製糸業の展開	
第三節 食品生産と住宅用品生産	410
醸造業の概観／酒造業の展開／醤油醸造業の展開／酢醸造業の展開／醸造業の多様化／名古屋・瀬戸の食器陶磁器生産／常滑の建築用陶器生産／名古屋の木材市場／名古屋のマッチ生産	
第四節 近代機械器具工業の勃興と電力業	432
地場産業と近代機械器具工業／時計製造工業の成功／鉄道車両工業の生成／自転車生産の開始／綿織機開発と企業化／製麵機製造から工作機械製造へ／電力業の誕生	
第五節 農業と地主制	456
地主制の進展／農産物商品化の動向／米生産力と県農政機構の変革／「系統的産米品評会」の開催／地主制の地域差と小作経営内容	
第六節 林業と山村	474
近代林政の展開／民間林業の新しい動向／御料林の設定／馬匹の生産／山野の資源利用	
第七節 産業基盤の整備と商品流通	494
日清戦後の銀行設立ブーム／貯蓄銀行の設立／尾三農工銀行の創業／日本銀行名古屋支店の開設／名古屋株式取引所の再興／一九〇一年の金融恐慌と豊橋／郵便事業・貯金事業の発展／電信・電話事業の展開／外国貿易の発展／商業会議所の設立／官設鉄道の開業／私設鉄道の計画／軌道の増加／コラム 岡崎市をめぐる「鉄道忌避」伝説	
第六章 日清・日露両戦争と県民	529
第一節 師団制の成立	530
第三師団の創設／一八九〇年陸海軍連合大演習／町村制の施行と徴兵事務／徴兵慰労会の設立と活動／日清戦争直前の状況	
第二節 日清戦争	542
戦争の始まり／第三師団諸隊の動員／平壤の戦いから遼原平野へ／県民の戦争支援活動／戦勝祝賀会と戦病死者の葬儀	
第三節 日清戦後の社会	560

出征部隊の凱旋と戦病死者／凱旋兵の歓迎と慰労／戦病死者の慰霊と仏教／仏教忠魂祠堂の建立／ 名古屋の第一軍戦死者記念碑／豊橋の神武天皇銅像記念碑／日清戦争と小学校生徒／ 旅団の再編成と地域／コラム 清国の海城に建立された戦争記念碑	
第四節 日露戦争	578
日露開戦と戦場へ向かう県民／第三師団の動きとその損害／一出征兵士の日露戦争／ 応召軍人家族の生活救助／軍事物資の徴発と献納／尚武会と愛国婦人会／増税と軍事国債／ 日露戦争と学校教育／捕虜の収容と県民／戦争の長期化と地域社会／戦争の終結と講和反対運動	
第七章 明治期の宗教と文化	601
第一節 宗教社会の変化	602
近代神社制度の成立／神社と祭礼の変容／熱田社から熱田神宮へ／国民教化政策と仏教／ キリスト教の布教／宗教をめぐる軋轢／県民の多様な信仰と講組織／日蓮寺の創建	
第二節 文化財の保存と公園の整備	624
古器旧物と宝物の調査／古社寺の保存／名古屋城の保存／史跡と公園／中村公園の誕生	
第三節 文化の展開	638
在来文化・芸能の動向／能楽の動向／歌舞伎の動向／過渡期の文学／近代文学の発祥／詩歌の動き／ 美術の動向／新聞の始まりと広がり／コラム 清澤満之と志賀重昂／コラム 平曲の盲人伝承と名古屋	
第八章 県民生活の不安と克服	659
第一節 流行病と衛生行政の展開	660
明治期の流行病対策／一八七九年のコレラ病の流行／流行病への県民の対応／ 病院・医学校の設立と治療／地域医療の担い手／明治後期の衛生対策	
第二節 濃尾地震と被害の復旧	678
濃尾地震の発生と報道／県内の地震被害の様相／負傷者への救援活動／復興へ向けて／ 犠牲者の追悼と震災の記憶／地震の科学的研究の出発／コラム 震災写真と名古屋の写真師	
第三節 風水害と治水・治山政策	696
県内の風水害の概観／大きな被害を出した風水害／木曾川改修問題／矢作川と庄内川の治水事業／ はげ山問題と治山政策／林務官僚の登場と環境思想／コラム 土木官僚黒川治愿の活躍	
第四節 社会事業の模索と女性	716
県内困窮者の状況／愛知育児院の設立・運営／困難な救貧事業／娼妓・遊郭の是非／ 廃娼論と娼妓廃業の過程／工女の生活と労働災害／良妻賢母主義の女子教育／職業婦人の増加／ 社会問題に視野を広げる女性	
第九章 半島と湾岸地域の近代	735
第一節 半島と湾岸地域	736
県の地理的特徴／柳田国男の「伊勢の海」／名所図会の中の半島と湾岸地域／明治前期の地理書／ 湾岸地域の変化	
第二節 明治期の知多半島・渥美半島	750
明治期の知多半島の暮らし／土管と屋根瓦の生産／明治期の渥美半島／伊良湖射場／離島の暮らし	
第三節 水産業・製塩業の動向	764
水産業の概要／漁業政策の展開と水産試験場／各種漁業の発展／養殖業の生成／ 水産物の流通と製造業の展開／製塩業の動向／コラム 木曾材と伊勢湾	
第四節 海上交通の展開	782
明治期の伊勢湾海運／大型汽船の就航と地元海運業者／中小海運業者の組織化／ 武豊港棧橋の改修と「開港」／コラム 欧米各国に人気だった名古屋扇	
第五節 県民の地域意識の形成	798
「尾張」と「三河」／地域利害の対立／県民の地域認識／外部からみた県の姿／二十世紀へ向けて	
あとがき	814
執筆分担	816
引用・参考文献一覧	818
掲載図版一覧	836
資料提供者及び協力者	846
愛知県史編さん関係者名簿	848
索引	